

豊泉医院

地域密着の診療で患者様の過去の医療情報を把握したい、ニーズに応えたレントゲンフィルムの電子化画像とPACS画像との連携による比較読影の実現



施設名：豊泉医院
所在地：千葉県野田市尾崎815-2
概要：豊泉医院は「地域に密着し、地元の皆様へ愛される医院であり続けます。」をモットーに診療されています。昭和46年に先代がこの地に開業以来、40余年内科、小児科を主に、地域医療に貢献できるよう心がけて診療されてきました。院長は「今後も患者様にご満足頂けるよう精一杯努力していきたい。」とメッセージされています。
診療科：内科、小児科、胃腸科、アレルギー科
職員数：8名
URL：<http://toyouzumi-clinic.com/index.html>

お話を伺った方

院長
豊泉 茂 先生

レントゲンフィルムでの運用や保管での課題

—お困りのことは何だったのでしょうか？

レントゲンフィルムは高張り、保管場所にも困っていましたが、レントゲンフィルムの取出しやその後の収納にも労力がかかっていました。また、フィルムの現像処理や廃液処理にも煩わしさを感じていました。当院は地域に密着して患者さんに納得いただき、満足いただける医療を提供することを目標にしています。そのためにも診療の上で患者さんの病状を期間を通して比較することが一番大事なことだと感じていました。

レントゲンフィルム電子化のきっかけ

—どのようなタイミングで電子化されたのでしょうか。

比較読影の診察には、まずはレントゲンフィルムの電子化が必須と最初に判断しました。その後にPACSベンダーの選定に入りました。結果、平成27年3月に富士フィルムメディカルさんのC@RNACOREを採用、同時にレントゲンフィルムを電子化して医用画像がC@RNACOREの端末で読影できる環境を整えることができました。電子化にあたっては費用面も考慮して、まずは比較的直近の患者さんを対象にしました。

レントゲンフィルム電子化の効果

—変わったこと、良くなったことは何ですか。

当初の目的どおり、患者さんの経過を過去の医用画像を比較しながら診察できますので、的確な診断ができますね。また、端末で瞬時に画像が表示されますので、以前のようにレントゲンフィルムの取出し時間もなくなり、その分、患者さんの待ち時間も少なくなりますね。診察時間の短縮にも繋がり、満足レベルで使用しています。電子化したレントゲンフィルムはまだ保管していますが、いずれ廃棄する予定です。

レントゲンフィルム電子化の業者選定ポイント

—電子化の作業業者を比較して当社を選択されたポイントを教えてください。

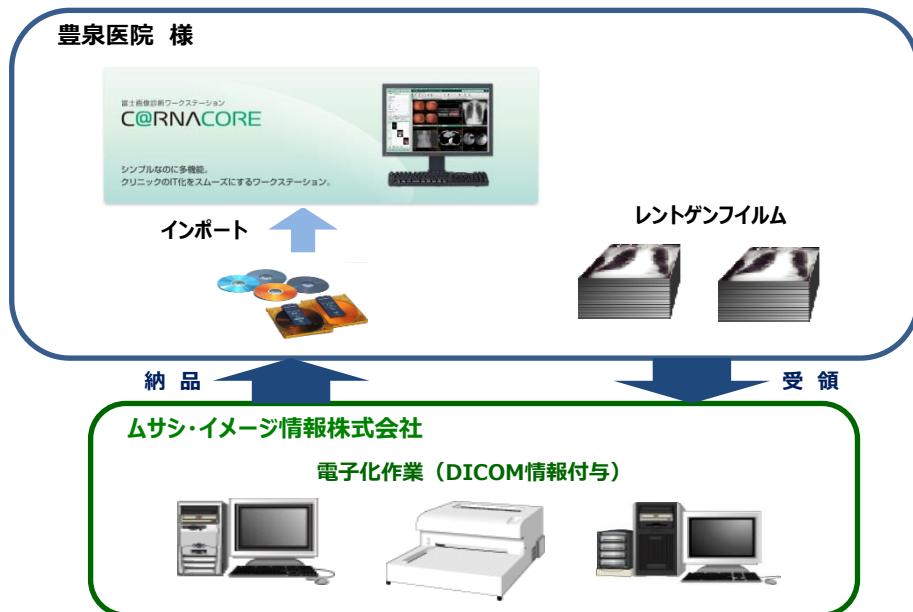
PACSの採用にあたり、PACSとレントゲンフィルムの電子化作業をトータル提案してくれるベンダーが選定条件のひとつでした。PACSベンダーの富士フィルムメディカルさんが電子化作業をムサシイメージ情報さんと提案してくれたからです。総合的に判断して富士フィルムメディカルさんにPACSと電子化作業を発注しました。電子化作業単独だと安価な業者もありましたが、PACSとの連携実績があることも決定ポイントとして評価しました。当院としても安心できますからね。

事例ポイント

1. PACS装置とレントゲンフィルム電子化の同時採用で医用画像の比較読影が実現
2. レントゲンフィルムの取出し、収納労力の解消、フィルム現像、廃液処理の煩わしさ解消
3. PACSとレントゲンフィルム電子化の医用画像連携、実績面での安心感

導入ソリューション

《豊泉医院様の画像情報システムの運用イメージ》



ムサシ・イメージ情報株式会社
医用画像事業部

TEL : 03-6228-4263

E-mail : xray@musashi-ij.co.jp

URL : <http://www.musashi-ij.co.jp/>

〒135-0062 東京都江東区東雲1-7-12 KDX豊洲グランスクエア

